

途上国医療の質向上に寄り添う

Stand by you!



そばにいるよ

昨年5月にベトナムへの2年間の長期派遣から戻った。今年も立て続けに3度の海外出張があり、多忙な日々を送る。

勤務先は国立国際医療研究センター（東京都新宿区）の国際医療協力局。名称からは「国境なき医師団」のような救命活動をイメージしがちだが、彼女が主に担うのは、途上国の医療人材育成や医療の質の向上といった制度作りだ。

2013年、国際協力機構（JICA）の専門家として初めてカンボジ

国際保健康療協力に 五十嵐 恵さん(40)

国際保健康療協力に
従事する医師としての

アに派遣された際は、国立病院の新生児室のケア向上を任せられた。毎日のように赤ちゃんが亡くなる「命の重さが国によって違う」という現実。家族が不慣れな手つきで人工呼吸のバッグを使うのを見かねて操作を代わると、スタッフから「あなたがいると家族が決断できな」と注意されたりもした。皆で議論を重ねて作った家族向けのケアの冊子は、今も活用されているという。

ベトナムで手掛けたのは新卒看護師の臨床研修

制度の構築。「まず教えられる人を育てないと」と、指導者研修の講師探しから始め、2年で一部地域での試行にこぎつけた。心掛けたのは「現地の人々が『自分たちが作った』と思える制度にすること」。看護は地域の文化と密接につながり、背景を理解してこそ患者に寄り添える、と考える。

看護師になるのを応援してくれた祖母は92歳の今も元気に布団作りの仕事を続ける。「私もそんなふうになりたい」と目を輝かせる。【清水健二】

